

介護職員初任者研修科目別シラバス

事業者 株式会社トーコーケア  
 研修名称 トーコーケア介護職員初任者研修

1. 職務の理解				
到達目標・評価の基準				
研修に先立ち、これから介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(1)多様なサービスの理解	3時間	3時間		<講義内容> ・介護保険サービス・介護保険外(障害者等)のサービスについて ・介護保険による居宅サービスの種類。 ・介護保険における施設サービスの種類。  <演習> 介護保険ではどのような所でサービスが利用できるのかグループで話しあう。
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	3時間		<講義内容> ・居宅・施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅・施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ(視聴覚教材の活用、現場職員の体験談も活用しながら理解を深める) ・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の流れ、チームアプローチ・他職種 ・介護保険外サービスを含めた社会資源との連携  <演習> 居宅・施設サービスにおける介護職の仕事と内容についてグループで話しあう
合計	6時間	6時間		

2. 介護における尊厳の保持・自立支援				
到達目標・評価の基準				
介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(1)人権と尊厳を支える介護	5時間	1.5時間	3.5時間	<p>&lt;講義内容・通信課題の概要&gt;</p> <p>(1)人権と尊厳の保持  ・個人として尊重・アドボカシー・エンパワメントの視点・「役割」の実感  ・尊厳のある暮らし・利用者のプライバシーの保護</p> <p>(2)ICF(国際生活機能分類)  ・介護分野におけるICF</p> <p>(3)QOL  ・QOLの考え方  ・生活の質</p> <p>(4)ノーマライゼーション  ・ノーマライゼーションの考え方</p> <p>(5)虐待防止・身体拘束禁止  ・身体拘束禁止・高齢者虐待防止法・高齢者の養護者支援</p> <p>(6)個人の権利を守る制度の概要  ・個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業</p> <p>&lt;演習&gt;  具体的ケースを提示し、グループワーク(事例検討会)を行なう。</p>
(2)自立に向けた介護	4時間		4時間	<p>&lt;通信課題の概要&gt;</p> <p>(1)自立支援  ・自立・自律支援・残存能力の活用・動機と欲求・意欲を高める支援  個別性/個別ケア・重度化防止</p> <p>(2)介護予防  ・介護予防の考え方</p>
合計	9時間	1.5時間	7.5時間	

3. 介護の基本				
到達目標・評価の基準				
<p>・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。</p> <p>・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。</p>				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(1)介護職の役割、専門性と多職種連携	2時間	1時間	1時間	<p>&lt;講義内容・通信課題の概要&gt;</p> <p>(1)介護環境の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護と施設介護サービスの違い</li> <li>・地域包括ケアの方向性</li> </ul> <p>(2)介護の専門性</p> <p>重度化防止・遅延化の視点・利用者主体の支援体制・自立した生活を支えるための援助・根拠のある介護・チームケアの重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所内のチーム・他職種から成るチーム</li> </ul> <p>(3)介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる専門性を持つ多職種の理解・介護支援専門員・サービス提供責任者・看護師等とチームとなり利用者を支える意味</li> <li>・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供・チームケアにおける役割分担</li> </ul>
(2)介護職の職業倫理	1時間		1時間	<p>&lt;通信課題の概要&gt;</p> <p>(1)職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職の倫理の意義・介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)・介護職としての社会的責任</li> <li>・プライバシーの保護・尊重</li> </ul>
(3)介護における安全確保とリスクマネジメント	2時間	2時間		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1)介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故に結びつく要因を探り対応していく技術・リスクとハザード</li> </ul> <p>(2)事故予防・安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント・分析の手法と視点・事故に至った経緯の報告(家族への報告・市町村への報告等)・情報の共有</li> </ul> <p>(3)感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の原因と経路(感染源の排除・感染経路の遮断)</li> <li>・「感染」に対する正しい知識</li> </ul> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>介護現場ではどのような危険が潜んでいるか？グループで話し合うことによってリスクマネジメントについて理解する</p>
(4)介護職の安全	1時間		1時間	<p>&lt;通信課題の概要&gt;</p> <p>(1)介護職の心身の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の健康管理が介護の質に影響・ストレスマネジメント</li> <li>・腰痛の予防に関する知識・手洗い・うがいの励行・手洗いの基本</li> <li>・感染症対策</li> </ul>
合計	6時間	3時間	3時間	

4. 介護福祉サービスの理解と医療との連携				
到達目標・評価の基準				
介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(1)介護保険制度	3時間		3時間	<通信課題の概要> (1)介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・ケアマネジメント・予防重視型システムへの転換・地域包括支援センターの設置・地域包括ケアシステムの推進 (2)仕組みの基礎的理解 ・保険制度としての基本的仕組み・介護給付と種類・予防給付 ・要介護認定の手順 (3)制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ・財政負担・指定介護サービス事業者の指定
(2)医療との連携とリハビリテーション	3時間	3時間		<講義内容> ・医療行為と介護・訪問看護・施設における看護と介護の役割・連携・リハビリテーションの理念  <演習> 施設における介護職の専門分野・看護職の専門分野・リハビリの専門分野についてグループで話し合うことにより連携の仕方について理解する。
(3)障害者総合支援制度及びその他の制度	3時間		3時間	<通信課題の概要> (1)障害者福祉制度の理念 ・障害の概念・ICF(国際生活機能分類) (2)障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3)個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業
合計	9時間	3時間	6時間	

5. 介護におけるコミュニケーション技術				
到達目標・評価の基準				
高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(1)介護におけるコミュニケーション	4時間	3時間	1時間	<p>&lt;講義内容・通信課題の概要&gt;</p> <p>(1)介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・傾聴・共感の応答</p> <p>(2)コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーションの特徴・非言語的コミュニケーションの特徴</p> <p>(3)利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する・意欲低下の要因を考える・利用者の感情に共感する・家族の心理的理解・家族へのいたわりと励まし ・信頼関係の形成・自分の価値観で家族の意向を判断し非難する事がないようにする・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>(4)利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術・失語症に応じたコミュニケーション技術・構音障害に応じたコミュニケーション技術・認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>・それぞれの役を決め(利用者、介護職、観察者)を決めロールプレイで模擬体験をする。 ・利用者・家族とのコミュニケーションのとり方をロールプレイで模擬体験をする。</p>
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	2時間		2時間	<p>&lt;通信課題の概要&gt;</p> <p>(1)記録における情報共有 ・介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録・介護に関する記録の種類・個別支援計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等)・ヒヤリハット報告書・5W1H</p> <p>(2)報告 ・報告の留意点・連絡の留意点・相談の留意点</p> <p>(3)コミュニケーションを促す環境 ・会議・情報共有の場・役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)・ケアカンファレンスの重要性</p>
合計	6時間	3時間	3時間	

6. 老化の理解				
到達目標・評価の基準				
加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(1)老化に伴うところとからだの変化と日常	3時間		3時間	<p>&lt;通信課題の概要&gt;</p> <p>(1)老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・防衛反応(反射)の変化・喪失体験</p> <p>(2)老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化と日常生活への影響・咀嚼機能の低下 ・筋・骨・関節の変化・体温維持機能の変化・精神的機能の変化と日常生活への影響</p>
(2)高齢者と健康	3時間	3時間		<p>&lt;講義の内容&gt;</p> <p>(1)高齢者の疾病と生活上の留意点 ・骨折・筋力の低下と動き・姿勢の変化・関節痛</p> <p>(2)高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)・循環器障害の危険因子と対策・老年期うつ病症状(強い不安感・焦燥感を背景に「訴え」の多さが全面にでる、うつ病性仮性認知症)・誤嚥性肺炎・病状の小さな変化に気づく視点・高齢者は感染症にかかりやすい</p>
合計	6時間	3時間	3時間	

7. 認知症の理解				
到達目標・評価の基準				
介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(1)認知症を取り巻く状況	1時間	1時間		<講義内容> (1)認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア・認知症ケアの視点(できることに着目する)
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	2時間		<講義内容> (1)認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・認知症の定義・もの忘れとの違い・せん妄の症状・健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア)・治療・薬物療法 ・認知症に使用される薬
(3)認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2時間		2時間	<通信課題の概要> (1)認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の中核症状・認知症の行動・心理症状(BPSD) ・不適切なケア・生活環境で改善 (2)認知症の利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する・プライドを傷つけない・相手の世界に合わせる・失敗しないような状況をつくる・すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること・身体を通じたコミュニケーション ・相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する ・認知症の進行に合わせたケア
(4)家族への支援	1時間		1時間	<通信課題の概要> ・認知症の受容課程での援助・介護負担の軽減(レスパイトケア)
合計	6時間	3時間	3時間	

8. 障害の理解				
到達目標・評価の基準				
障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(1)障害の基礎的理解	1時間	1時間		<講義内容> (1)障害の理念とICF ・ICFの分類と医学的分類・ICFの考え方 (2)障害者福祉の基本理念 ・ノーマライゼーションの概念
(2)障害の医学的側面、生活障害 心理・行動の特徴、かかわり 支援等の基礎的知識	1時間	1時間		<講義内容> (1)身体障害 ・視覚障害・聴覚、平衡障害・音声・言語・咀嚼障害・肢体不自由 ・内部障害 (2)知的障害 ・知的障害 (3)精神障害(高次機能障害・発達障害を含む) ・統合失調症・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4)その他心身の機能障害
(3)家族の心理、かかわり 支援の理解	1時間		1時間	<通信課題の概要> (1)家族への支援 ・障害の理解・障害の受容支援・介護負担の軽減
合計	3時間	2時間	1時間	



9. 心とからだのしくみと生活支援技術 基本知識の学習				
到達目標・評価の基準				
<p>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p>				
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	内容
(1)介護の基本的な考え方	3時間	3時間		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除)・法的根拠に基づく介護</li> <li>・利用者主体の介護・生活意欲を引き出す介護</li> </ul> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>我流介護の弊害について討議し、我流介護の否定についての理解を深める。</p>
(2)介護に関する心とからだのしくみの基礎的理解	3.5時間		3.5時間	<p>&lt;通信課題の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と記憶の基礎知識・感情と意欲の基礎知識・自己概念と生きがい・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因・心とからだの持ち方が行動に与える影響・からだの状態が心とからだに与える影響</li> </ul>
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3.5時間		3.5時間	<p>&lt;通信課題の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の各部の名称と働き・骨、関節、筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識・自律神経と内部器官に関する基礎知識・心とからだを一体的に捉える・利用者の様子の普段との違いに気づく視点</li> </ul>
合計	10時間	3時間	7時間	

9. ことごとからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術の講義・演習				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(4)生活と家事	3時間		3時間	<p>&lt;通信課題の概要&gt;</p> <p>(1)家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ・生活歴・自立支援・予防的な対応・主体性・能動性を引き出す ・多様な生活週間・価値観・認知症高齢者への関わり</p>
(5)快適な居住環境整備と介護	3時間	3時間		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1)快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の 居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ・家庭内に多い事故・バリアフリー・住宅改修・福祉用具貸与</p> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>グループワークにて事例検討を行なう</p>
(6)整容に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	8時間	6時間  2時間 (実習)		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1)整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱・身支度・整容行動 ・洗面の意義・効果・自立支援を支える身支度の介護について留意点</p> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>護(方麻痺や寝たきり者への対応)を体験・学習する。 洗面・洗顔、整髪、爪の手入れ、口腔ケアについて、講義で学んだ留意点を踏まえて実践する。</p>
(7)移動・移乗に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	12時間	8時間  4時間 (実習)		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1)移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する 用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動 ・移乗を阻害することごとからだの要因理解と支援方法 移動と社会参加の留意点と支援 ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法・利用者の自然な 動きの活用・残存能力の活用・自立支援・重心・重力の動きの理解 ・ボディメカニクスの基本原則・移乗介助の具体的な方法(車いす への具体的な方法、全面解除でのベット・車いす間の移乗、全面 介助での車椅子・洋式トイレ間の移乗)・移動介助(車いす・歩行器 つえ等)・褥瘡予防・体位交換の方法</p> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>・車イスでの移動介助を実践する。 ・杖による歩行で、段差や階段の上り下りなど、状況別介助を実践する。 ・視覚障害者の歩行の介助を学ぶ。 ・体位変換を学ぶ</p>

9. ことごとからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術の講義・演習				
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	内容
(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	4時間  2時間 (実習)		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1)食事にに関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害することとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <p>・食事をする意味・食事のケアに対する介護者の意識・低栄養の弊害・脱水の弊害・食事と姿勢・咀嚼・嚥下のメカニズム・空腹感・満腹感・好み・食事の環境整備(時間・場所)・食事に關した福祉用具の活用と介助方法・口腔ケアの定義・誤嚥性肺炎の予防</p> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>設定はおやつ時間。左片マヒの利用者におやつを介助する。</p> <p>・食後(おやつの後)に口腔ケアを行う</p>
(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立にむけた介護	7時間	5時間  2時間 (実習)		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1)入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害することとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>・羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認・全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方身体を支え方)・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法・陰部洗浄(臥床状態での方法)・足浴・手浴・洗髪</p> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>少人数または、2人1組になり実技演習を行う</p> <p>・部分浴の具体的方法を行う。</p> <p>・ベッド上での洗髪方法を行う。</p>
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9時間	7時間  2時間 (実習)		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1)排泄に関連する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害することとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>・排泄とは・身体面(生理面)での意味・心理面での意味・社会的な意味・プライド・羞恥心・プライバシーの確保・おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害・排泄障害が日常生活上に及ぼす影響・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連</p> <p>・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法・便秘の予防(水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維室の食物を多く取り入れる/腹部マッサージ)</p> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>・ポータブルトイレでの介助方法を実践で学ぶ。</p> <p>・おむつ交換方法を実践で学ぶ。</p> <p>片麻痺者について排泄介助の方法(移動・移乗・オムツ等)</p>
(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4時間	4時間		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1)睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 快い睡眠を阻害することとからだの要因の理解と支援方法</p> <p>・安眠のための介護の工夫・環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室)・安楽な姿勢・褥瘡予防</p> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>・各自ベッドメイキングの具体的な方法を実践で学ぶ。</p>

9. 心とからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術の講義・演習				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(12)死にゆく人に関連した心とからだのしくみと終末期介護	3時間	3時間		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>(1)終末期に関する基礎知識と心とからだのしくみ、生から死への課程、「死」に向き合う心とからだの理解、苦痛の少ない死への支援・終末期ケアとは・高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)・癌死)・臨終が近づいたときの兆候と介護・介護従事者の基本的態度・多職種間の情報共有の必要性</p> <p>&lt;演習&gt;</p> <p>のかかわりかたについてグループでディスカッションする。</p>
合計	55時間	55時間		

9. こころとからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術演習				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(13)介護課程の基礎知識	4時間	4時間		<講義内容> ・介護課程の目的・意義・展開 ・介護課程とチームアプローチ ・情報収集の仕方・計画に基づいたプランの実施  <演習> 個別援助の介助計画を作成し、評価する。
(14)総合生活支援技術演習	6時間	6時間		<演習> (事例による展開) 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況のあわせた回とを提供する視点の習得を目指す ・本科目で用いる事例について正しく内容を理解する。 事例は「要支援2程度」、「認知症」、「片麻痺」、「座位保持不可」のうち、2事例を提示する。 ・事例に基づき、こころとからだの力が発揮できない要因の分析を行う。 ・要因分析に基づいた適切な支援技術の検討を行う。 ・実際に支援技術に基づいた演習を行う。 ・演習後、支援技術の課題について確認し合う。
合計	10時間	10時間		

10. 振り返り				
到達目標・評価の基準				
研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	内容
(1)振り返り	2時間	2時間		<p>&lt;実習内容&gt;</p> <p>こと、根拠に基づく介護についての要点を振り返る。 上記内容を踏まえた実習を行なう</p>
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間	2時間		<p>&lt;講義の内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入職後のキャリアアップについて、訪問介護事業所・通所介護等の実際の事例に基づき説明する。</li> <li>・事業所における研修や技術支援の実例について説明する。</li> </ul> <p>&lt;演習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修修了後も継続して学ぶべきことについて意見、及び情報の交換を行う。</li> </ul>
合計	4時間	4時間		